

Contents

- 2 ページ 「直腸がんセンター」新設のお知らせ
- 3 ページ がん免疫療法の効果に関わるメカニズムを解明
- 4 ページ上段 抗がん剤による副作用を予測できる検査方法の開発を進めています
- 4 ページ下段 ペプチド受容体放射線核種療法（PRRT）の受け入れ病院検索システムのご紹介
- 5 ページ 看護の日のイベントを開催しました
- 6 ページ上段 外来化学療法室の事前採血点滴予約をオープンしました
- 6 ページ下段 基本的な感染対策に関する対応について
- 7 ページ上段 スキンケア教室を開催しました
- 7 ページ下段 【連載】はい、こちら「がん相談支援センター」です
- 8 ページ上段 寄付者ごほうめい
- 8 ページ下段 ご寄付のお願い

2 ページ

「直腸がんセンター新設のお知らせ」 消化器外科・大腸外科 安井昌義

2024 ねん 5 がつついたちより、「直腸がんセンター」を新設しました。「直腸がんセンター」の設立によって私たちが目指すところにつき解説させていただきます。

直腸がん診療における多角的アプローチの必要性

大腸がんの中でも特に直腸がんの診療の進歩は近年めざましく、その診断方法や治療方法は多岐にわたります。内視鏡治療、手術、放射線治療、化学療法を単純に組み合わせるだけではなく、「どのような患者さんに、いずれの治療を、どの時期に、いかにおこなうのか？」を考える必要があり、診断と治療がますます多様化してきたため、さまざまな専門知識と技術が必要な疾患となってきました。

直腸がん診療の課題解決に向けて

情報化社会の中、どのような直腸がん治療の選択があるのかを患者さんに説明し、ご理解・把握いただくことは当センターの課題と考えておりました。また、近年は、遺伝性の大腸がんの患者さんやそのご家族に対する診療やカウンセリング、人工肛門が必要な患者さんへのサポート、社会的支援の

必要性など、患者さんに必要な医療はさらに専門化・多様化し、患者さんの個性に合わせて、これらのサービスをいかに適切に提供し、治療を継続していただくかも喫緊の課題と捉えてきました。これらの課題を解決し、患者さんの視点に立った医療の提供と開発を目指して、当センターないのたぶもんのスタッフが力を合わせる体制として「直腸がんセンター」を新設することとなりました。

「直腸がんセンター」による包括的医療に向けて

「直腸がんセンター」の新設にあたっては、消化器外科（大腸外科）医、腫瘍内科医（抗がん剤の専門家）、放射線治療医、消化管内科医（内視鏡による診断と治療の専門家）、放射線診断医、病理診断医（組織や細胞診断の専門家）や、遺伝子診療・遺伝性腫瘍の専門家など診断・治療に直接かかわる診療科だけでなく、「心療科による直腸がん患者さんに対する精神療法・薬物支持療法」、「薬局による安全な薬物治療のチェックと情報の提供」、「リハビリテーション科による術後のリハビリ」、「看護部による人工肛門看護」など、多岐にわたる部門・職種が有機的に一つとして働くことで、細やかなサポートと包括的な治療が可能な体制作りを目指しました。

これらの専門家が連携し、異なった視点から、患者さんごとに最適と思われる診療計画を立てて実行・サービスすることで、より良い治療を受けていただくことを目指してまいります。

最後に

新たに受診を考えてくださる患者さん、ご紹介を検討いただいている先生がたには、具体的な治療方法が不明であっても「直腸がんセンター」を受診・ご紹介いただくことで、直腸がんセンターないで一括した情報共有のうえ、適切な診療窓口へ案内させていただきます。

また、今後はたぶもんからなる「直腸がんセンター」にて多くの患者さんにご納得いただける治療を提供することを通して、直腸がん治療の情報発信と併せて次世代の治療開発にも努めてまいります。

3 ページ

「がん免疫療法の効果に関わるメカニズムを解明」

当センター研究所がん創薬部、溝手 雄研究員らの研究グループは、がん免疫療法の効果に関わり臨床応用につながる重要なメカニズムを明らかにしました。本研究は当センターの呼吸器内科、病理・細胞診断科との共同研究であり、その成果をまとめた英語論文が日本癌学会機関誌である *Cancer Science* 誌に掲載されました。(Mizote Y, Inoue T, Akazawa T, Kunimasa K, Tamiya M, Kumamoto Y, Tsuda A, Yoshida S, Tatsumi K, Ekawa T, Honma K, Nishino K, Tahara H. Potent CTLs can be induced against tumor cells in an environment of lower levels of systemic MFG-E8. *Cancer Sci.* 2024;115(4) :1114-1128. doi: 10.1111/cas.16099.)

がん細胞に対する免疫応答は、腫瘍の中に存在するがんの死細胞が、食細胞によって取り込まれることにより始まります。食細胞は、がん細胞に含まれる“がん抗原”を免疫が攻撃する際の目印としてT細胞（異物を認識することができる、免疫応答で最も重要な細胞の一つ）に提示します。この目印を覚えたT細胞は活性化して、この目印を頼りに生き残っているがん細胞を発見して攻撃します。これにより死んだがん細胞は再び食細胞に取り込まれ、最初の段階がまた新たに始まります。この一連の円環反応である“がん免疫サイクル”が実現すれば、効果的な免疫反応が起きることが期待できます。しかし、ほとんど全てのがん患者さんでは、このサイクルはどこかの部分（チェックポイント）で停止してしまいますので、「がんの自然治癒」が起こることは、非常にまれです。このがん免疫サイクルを止めることなく回すことに成功して有効性が証明された初めての薬剤が、現在標準治療としても使用されている免疫チェックポイント阻害薬（現在日本で承認されている免疫チェックポイント阻害薬はオプジーボ、キイトルーダ、イミフェンジ、バベンチオ、テセントリク、リブタヨ、ヤーボイ、イジユド）であり、その多くは、すでに活性化したT細胞ががん細胞を攻撃する最終段階においてPD-1という分子（この分子機構を発見した功績により、本庶 佑博士はノーベル賞を受賞されました）によってブレーキがかかる所を標的としています。

研究グループは、がん免疫サイクルにおける既存の薬剤とは異なる標的として、T細胞を活性化させる所で重要な働きを持つMFG-E8という分子に着目しました。今回の動物を用いた検討により、MFG-E8が大量に存在するとがん抗原を認識して攻撃するT細胞が十分に活性化しませんが、MFG-E8が少ない条件では、活性化したT細胞が増えて効果的な免疫反応が期待できるだけでなく、既存の免疫チェックポイント阻害薬の効果も高まることが明らかとなりました。研究グループはMFG-E8の働きを抗体で阻害することで抗がん剤や免疫チェックポイント阻害薬の効果を高められることも見出しており、既存の治療法の効果を高める併用薬として、今後の開発が期待されます。

また、当センターで免疫チェックポイント阻害薬の治療を受けた肺がん患者さんの、治療前の血液中に含まれるMFG-E8の量を測定しました。すると治療効果が見られた患者さんと比べて、治療効果の見られなかった患者さんの方がMFG-E8の量が多いことが分かりました。免疫チェックポイント阻害薬による副作用や治療費の高額化が問題となっていますが、あらかじめMFG-E8の量を測っておくことで、個々の患者さんに適した治療を選択できる検査方法となる可能性があり、その実用化に関して検討を進めたいと考えています。

4 ページ上段

抗がん剤による副作用を予測できる検査方法の開発を進めています

研究所 がん創薬部

研究所がん創薬部と、消化器外科および病理・細胞診断科との共同研究成果が英文医学雑誌に掲載されました (Tatsumi K, Wada H, Hasegawa S, Asukai K, Nagata S, Ekawa T, Akazawa T, Mizote Y, Okumura S, Okamura R, Ohue M, Obama K, Tahara H. Prediction for oxaliplatin-induced liver injury using patient-derived liver organoids. Cancer Medicine. 2024 Feb;13(3): e7042. doi: 10.1002/cam4.7042.)。

大腸がんに対して高い治療効果を期待できる抗がん剤の一つであるオキサリプラチンによる副作用として肝障害が出る患者さんがおられます。しかし、この副作用の起こりやすさを抗がん剤治療の開始前に予測し、個々の患者さんに最適な治療法を検討できる検査方法は存在しませんでした。そこでわれわれは、患者さんから採取した肝臓組織から、体内の肝細胞の特徴を保持したまま体外で安定的に培養(細胞を生体から取り出し、体外で生かし続けること)できる「肝オルガノイド (organoid) 培養法」を用いた検討を始めました。その結果、これまでおこなわれてきた方法に工夫を加えて、培養されている肝オルガノイドが体内の肝細胞とより近い機能を持つようにすれば、試験管内の検査を用いて患者さんの肝障害発症リスクを予測できることを見出しました。

この方法は、患者さん一人一人に合った治療法の選択を可能にするものと考えられます。われわれは、この方法の実用化に向けさらに研究を進めていきたいと考えております。

4 ページ下段

ペプチド受容体放射線核種療法 (PRRT) の受け入れ病院検索システムのご紹介
希少がんセンター たかだ 良司

ルテチウムオキソドトロチドを用いた放射線内用療法である PRRT は、非常に高い治療効果が期待でき、神経内分泌腫瘍 (NEN) の患者さんにとって“希求の治療”の一つとなっています。

PRRT は、アイソトープ治療室または法令に基づいた『特別な措置を講じた病室』による放射線管理が必要となり、大阪府では当センターを含む5病院のみで現在実施しています。しかし、全国にいる患者さんの立場からは『どの病院で実施しているか分からない』、また医療者や病院間においても『実施施設の受け入れ状況・空き状況が分からない』といった問題がありました。

これらを解決する一助として、医療総合サイトキューライフのウェブサイト『神経内分泌腫瘍の放射線治療 (ルテチウム-177) について相談できる病院検索』が利用できるようになりましたので、ご紹介させていただきたいと思います。

全国の NEN 患者さんやそのご家族、NEN 診療をおこなっている医療者の皆さまにご利用いただけますと幸いです。

当センターでのご相談は「[希少がんホットライン](#)」までどうぞ。

希少がんホットライン電話番号は 06-6945-1177 です。

電話受付対応時間は、平日 10 時から 16 時まで（土日しゅく、年末年始は除きます）

神経内分泌腫瘍の放射線治療（ルテチウム-177）について相談できる病院検索の検索方法は、<https://onl.la/KtHL1tp> にアクセスしてください

5 ページ

看護の日のイベントを開催しました

看護部看護の日委員会：小谷 美智代、小山 恭子、いがらし 雅代、藤嶋 久美子

ナイチンゲールの生誕日である 5 がつ 12 にちが「看護の日」と制定されています。看護部看護の日委員会では、看護の日にちなみ、5 がつこのか木曜日 14 時から 15 時に集合型の看護の日のイベントを開催しました。コロナかの影響で今年も入院患者さん限定での開催でしたが、45 めいの患者さんが集まりました。「みんなでつなごう！看護の輪」をスローガンとして、患者さんに楽しんでもらえるよう計画し活動を進めてきました。

活動内容は、メッセージカードの作成（入院患者さん用）、センターないに掲示するポスターと案内パンフレットの作成、各部署の紹介の映像制作、クイズ大会や体操のイベント開催と 4 つのグループに 37 めいの担当者が分かれて試行錯誤しながら準備に当たりました。

メッセージカードやポスター、パンフレットは写真にあるような手作り感あふれるとても良い仕上がりとなりました。

イベントでは、小島副看護部長から心温まるあいさつのあと、各部署紹介の映像をお届けし、患者さんに参加してもらえるクイズ大会、ラジオ体操、じゃんけん大会をおこないました。

各部署の紹介では、担当者が病棟ごとにその特徴を伝える写真と案内文を映像にしました。それぞれの病棟での看護の特徴が伝わったと思います。「病棟のことがわかってよかった」というお声を頂きました。

クイズ大会では、参加型で楽しんでもらえるよう趣向を凝らしました。患者さんから、「楽しく参加させていただきました」とのお言葉を頂きました。

ラジオ体操では、椅子から立ちあがり体操している患者さんも多く、看護師も見守りながらおこないました。「気分転換になりました」といったお言葉を頂きました。

アンケートでは「いろいろな体調の人にも対応できるイベントで、考えてくださった皆さまありがとうございました」「忙しい中でも看護師さんたちが時間を作ってイベントを作ってくれたことが私たちの力になりました」との感想もあり、スローガンにあります「みんなでつなごう！看護の輪」の通り、患者さんと看護師とみんなでつないだ輪となり、心に残るイベントになったと思います。

この活動が看護の心や助け合いの心を育むきっかけとなれば幸いです。

6 ページ上段

外来化学療法室の事前採血点滴予約をオープンしました
化学療法管理委員会

3 大がん治療法の 1 つであるがん薬物療法（抗がん剤治療）は日々進歩しており、その対象や効果も広がっております。当センターの外来化学療法室の利用すうも年々増加している現状で、治療を受けられる皆さまには予約時間よりお待ちいただく事も少なくないという状況です。

そこで点滴の準備・呼び込み待ち時間軽減を目的とした事前採血予約をオープンしました。

点滴前日に採血に来院いただく必要があり、診察と点滴時間に制限がありますが、当日の手続きを減らし、抗がん剤の準備をなるべく早くする事で待ち時間を軽減できると期待しております。

少しでも快適に治療を受けていただけるよう今後も検討してまいります。ご理解、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

事前採血点滴予約すると点滴前日に採血をし、当日の主治医の診察は 9 時から、点滴を 10 時から開始。10 時 30 分以降の予約は従来通り当日採血後、診察・点滴という流れです。

ご希望のかたは外来化学療法室の予約を取る際、事前採血予約希望とお伝えください。
誠に恐縮ですが、ご希望のかたが多い日にはご希望に添えない事もありますのでご了承ください。

6 ページ下段

基本的な感染対策に関する対応について

当センターでは感染拡大防止のため、外来診療等でお越しになる際には、手洗い、手指の消毒およびマスク着用といった予防策を講じていただくようお願いしています。

ご来院される全てのかたへのお願い

1. マスクの着用・手指衛生の徹底

- ・症状の有無にかかわらず、ご自身でマスクをご準備いただき常時マスクの着用をお願いいたします。
- ・玄関入口のほか、各所に手指消毒用アルコールを設置しておりますのでご利用ください。

2. 来院前の検温と体調確認

- ・付き添いで来られるかたが、風邪の症状や下痢など体調不良の場合は、来院をお控えください。
- ・患者さんが、来院前に発熱、風邪の症状（咳、鼻汁、喉の痛みなど）がある場合は、事前に代表番号（06-6945-1181）までご連絡ください。

3. 来院時の人数

- ・付き添いが必要なかたは、最小限の人数でご来院ください。セカンドオピニオンでのご入館（申し込みび・面談びとも）は、3 名までに限らせていただいております。

面会時のルール

面会時間は全日 14 時から 19 時、ICU は 14 時から 16 時で、いずれも 15 分程度。

1. ご家族（それに該当されるかた）のみ原則 2 名まで
 - ・ 10 歳以下（乳幼児を含む）のお子様の面会は一切禁止です。
2. 面会場所は病棟内のみ
 - ・ 1 階ロビーも一切禁止です。
3. マスクを常時着用
4. センターないへでいりする際の手洗い、手指消毒
5. 風邪の症状、下痢などの体調不良は、面会をお断りします
 - ・ 当センターには、免疫りよくが低く感染症にかかると重篤化しやすい患者さんが多くおられます。感染対策にご協力ください。

ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

7 ページ上段

スキンケア教室を開催しました。

SPRASH チーム

徐々に日差しが強くなり、夏が近づいてくるのを感じる季節になりました。猛暑に備えてスキンケア用品も準備していきましょう。

5 がつ 24 日金曜日に 2024 ねん度第 1 回スキンケア教室を開催しました。この教室は、化学療法などのがん治療に伴う皮膚障害を少しでも軽減したいとの思いから、その対策方法を患者さんに広めることを目的として SPRASH チームにより年 5 回程度を目標に開催しております。

今回は「がん関連浮腫のケア」をテーマに、整形外科医師より浮腫の診断と治療についてお話いただきました。また理学療法士より、浮腫に対して複合的にアプローチしていく実際の方法をお話いただきました。

コロナ感染症対策が続く中、参加者をつのれない状況が続いています。社会的にもオンデマンドやハイブリッド開催などが主流となってきた中、当教室も開催を控え Web 配信を主体とすることを

決めました。ご自身の都合の良い時間に

ご覧いただくと幸いです。

7 ページ下段

はい、こちら「がん相談支援センター」です

がん相談支援センター長 池山 晴人

File15 ご存じですか？ がん診療「ガイドライン」

各がん種の診療ガイドラインは、患者さん一人一人に最適な治療を選ぶための重要な情報げんです。

さまざまな治療がどの状態でどの程度推奨されるかが示されており、これらは科学的根拠に基づいた臨床試験をもとに専門家が検討し、有効性と安全性が確認されたものです。つまり、診療ガイドラインはエビデンスに基づいた最良と考えられる検査や治療法を示した、医療者と患者さんの意思決定を支援するための文書です。

診療ガイドラインの多くは医師・専門家向けですが、なかには患者さん向けに分かりやすく解説されたものもあり、病気や治療法を理解しやすくなっています。「一人一人にとっての最適な治療」は、がんの種類や進行度、からだの状態を考慮し、診療ガイドラインを参考にして医師と患者さんが共に選ぶものです。治療の選択に際しては患者さん・ご家族の価値観や生活の質も重要で、近年は「アピランスケア」や「妊よう性温存」に関するガイドラインも発行されています。

診療ガイドラインは定期的に改訂されるため、最新の情報を確認することが大切です。

当センター1階「がん情報コーナー」では各がん種の診療ガイドラインを閲覧することができますのでご利用ください。

図書の閲覧は、年末年始・祝日を除く平日 11時から 16時 30分です。現在、貸出はおこなっておりません。

8 ページ上段

ご寄付について

寄付者ごほうめい 2024/3/1 から 2024/5/31

ホウコクセイユカブシキガイシャ ダイヒョウトリシマリヤク イマガワ ヒロミチ様、ウメザキ ケイゴ様、ヨシムラ ヒロシ様、カワバタ アケミ様、イシイ トシオ様、コエダタテモノユウゲン ガイシャ ダイヒョウトリシマリヤク コエダ アキオ様、カネダ フミコ様、ワタナベ タケシ様、チバ タケシ様、クレベ セイコ様、ヨコガワ ミチコ様、タニグチ ケン様、オオノ マサヒロ様、株式会社オレンジホールディングス代表取締役 ヤギユウ ミエ様、タブチ オサム様、カワサキ トシオ様、ヨシダ フジエ様、スカワ ケンゾウ様、イマイ タケシ様 ほかとくめいしゃ 18めい
このたびもさまざまな個人や法人のかたがたから、貴重なご寄付を頂きました。ありがとうございます。温かいお心遣いに感謝するとともに、ご厚意に報いるべく、これからも患者さんにより良い医療とサービスを提供してまいります。

8 ページ下段

ご寄付のお願い

当センターは、常に「患者さん目線」で治療に当たるセンターでありたいと考えています。患者さんの治療環境の改善や充実した医療を提供していくため、皆様からのご支援をお願いしています。